開会　令和５年２月２４日
閉会　令和５年２月２４日

足利市教育委員会定例会

足利市教育委員会

令和５年第２回足利市教育委員会定例会会議録

足利市教育委員会教育長　須藤　秀幸は、令和５年２月２４日、令和５年第２回足利市教育委員会定例会を足利市役所に招集した。

１　出席委員は、次のとおりである。（５名）

教育長

須藤　秀幸

教育委員

笠原　健一	木村　知巳
松村　由紀	野口　直美

１　会議事件の説明に出席したのは、次のとおりである。

教育次長	岡田　和之	教育総務課長	石井　邦弘
生涯学習課長	齋藤　由美	市立図書館長	茂木　成一
学校管理課長	倉上　豊治	学校給食課長	清水　信博
文化課長	松葉　範幸	市立美術館長	片柳　孝夫
史跡足利学校事務所長	立野　公克	市民スポーツ課長	八代　浩守
国体推進課長	植木　　勲	学校教育課長	岡部　陽一
庶務担当総括主幹	腰高　　浩		

１　本委員会の書記は、次のとおりである。

亀山　泰昭

本日の会議日程

日程第１　会議録署名委員の指名について

日程第２　報告事項について

（教育総務課、学校教育課）

日程第３　議案第２号

令和４年度足利市一般会計補正予算（第１０号）について（教育委員会関係部分）

日程第４　議案第３号

令和５年度足利市行政組織の改正に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について（教育委員会関係部分）

日程第５　議案第４号

財産の取得について（藤本観音山古墳保存整備事業用地の取得）
日程第６　議案第５号
令和５年度足利市立小中学校長・教頭の人事異動について（当日配付）

開　会　　午後１時２９分

須藤教育長

ただいまから、第２回足利市教育委員会定例会を開会いたします。

日程第１　会議録署名委員の指名について

笠原委員　松村委員

以上のとおり、指名することについて異議なく了承される。

須藤教育長

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１４条第７項の規定に基づき、会議を非公開で行いたい案件があります。

日程第２の報告事項のうち、資料№３「令和５年度足利市立小中学校児童生徒数・学級数（見込み）」については、公表前の案件です。

日程第３の議案第２号「令和４年度足利市一般会計補正予算（第１０号）について（教育委員会関係部分）」及び、日程第４の議案第３号「令和５年度足利市行政組織の改正に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について（教育委員会関係部分）」については、議会報告前の案件です。

日程第５の議案第４号「財産の取得について（藤本観音山古墳保存整備事業用地の取得）」は、議会報告前及び個人情報を含む案件ですので、非公開として行いたいと思います。

また、議案第５号「令和５年度足利市立小中学校長・教頭の人事異動について」は、人事に関する案件ですので、別室にて非公開として行いたいと思います。よろしいでしょうか。

以上のとおり、非公開で行うことについて、異議なく承認される。

日程第２　報告事項について

須藤教育長

日程第２「報告事項について」、これを議題といたします。説明は、簡潔明瞭にお願いいたします。

（関係課長から説明）

須藤教育長
　ただいまの報告について、ご質問などがありましたら、お願いしたいと思います。

【令和５年度教育委員会予算案の概要について　　　　　　　　　資料№.１】
【令和５年度及び令和６年度実施計画について（教育委員会関係部分）　資料№.２】

木村委員
　資料１の１ページ。６番で、理科室にエアコンを設置するというところですが、全学校が対象なのか、それとも既に設置してあるところがあるのかというのが知りたいです。
　それと４２番のＡＩドリルについて、もうちょっと詳しくお聞かせいただければと思います。また、スマホで出欠を取るということでしたが、これは保護者のスマホを通じてなのかどうかというところも知りたいです。

学校管理課長
　中学校のエアコン設置事業についてですが、１１校全校となっております。今現在、理科室に設置している学校はありません。

教育次長
　中学校の理科室については、多い所では２部屋・３部屋ございます。山辺中のような大きな学校では２部屋にエアコンを設置する。それ以外の学校は１部屋ずつエアコンを設置することになります。

木村委員
　理科室というのは、今、学校には１教室ではなく、２・３教室があるのですか。

教育次長
　多い所では２教室あります。

木村委員

それは、どういう目的であるのでしょうか。

学校管理課長

人数が多い大規模校には２教室あります。児童生徒数に応じた配置となっております。

木村委員

わかりました。ちょっと予算的に非常に大きな予算で、１校当たりにすると結構な金額でしたので、これが適正なのかどうかというのがわからなかったのでお聞きしました。

学校教育課長

ＡＩドリルのことについてご説明いたします。ＡＩドリルですが、市立小中学校の全児童生徒約９，２００人を対象に導入します。タブレット端末の中に設定することで、タブレットを使いながら自学自習が可能となるものです。中身については、授業の理解度に合わせて、最適な問題が自動で出題されるほか、教員が学習状況を画面等で把握できる機能も備えています。児童生徒がつまずいている原因をＡＩが自動で判別するため、学年を遡った学習も可能であり、学力向上に繋がるものと考えております。

健康アプリについてですが、実際にスマートフォンを使いまして、児童生徒の健康状態、または欠席の連絡などを直接学校の方に通知することができるもので、保護者と学校の双方向の連絡手段を可能とするものです。また、アプリについては健康観察以外に、保護者に一斉メールを送信する機能も備えています。保護者のスマホやガラケーにも対応しています。

木村委員

保護者のスマホとガラケーに対応できれば、ほぼほぼ解決できるのかなと思っています。タブレットなどを使った方が、皆さんが同じようなフォーマットで同じように回答できるのかなと思いましたので、聞かせていただきました。

あと、もう１つ、ＡＩドリルについてですが、先生の手間等も含め、非常に良いものかなと感じました。先生が生徒の習熟度であったり、勉強の出来栄えといったものが可視化できるのは、非常に良いことだと思いました。もし、それが可能であれば、一保護者としては、保護者にもそういった可視化ができるような仕組みがあると、自分の子どもはどれくらいできるのかということが通知表や学校生活の中ではなかなか気づきにくいので、保護者にもそういったデータを共有できるような仕組みがあれば、そこに対しては予算をつけていただいて実施してもらった方が、多分保護者の意識も変わると思います。足利市の

子どもたち全体の教育レベルが、知識水準が上がると思います。是非、そういったことができるようであれば、対応してもらえればと思います。

学校教育課長

まずは、欠席連絡については、保護者の持っているスマホや携帯から直接打ち込む方が非常に便利ということで、タブレットではなくスマホとの連携を考えたところです。２つ目の保護者にも自身のお子さんの成績が見られるかというご質問ですが、実際に見ることができます。そのような機能も活用していきたいと思います。

木村委員

ありがとうございます。非常に楽しみです。

野口委員

ここに重点施策として出されているもので予算額が増加した予算割合は、マイナスも含めて６億８，０００万円ぐらい増えているということは、逆に言うと、その予算的には１億２，０００万円しか増えていないのに、ここに６億８，０００万円あまり増えているということは、それ以外のところで５億５，０００万円ぐらい減っているということになると思います。素朴な疑問ですが、予算的に主に何が大きく減ったのかお聞きしたいです。

教育次長

一番大きく変わりましたのは、国体の終了に伴いまして３億２，０００万円が皆減しました。それを差し引いても、予算額が伸びているのは、市民体育館の床ですとかエアコンですとか、今回の色々な施設整備にかなり予算が増えておりますので、全体として増えている状況となっています。

野口委員

国体の予算が３億円で、それがなくなったとしても、これ以外に５億５，０００万円ぐらいどこかが減っているかと思います。残りの４億ちょっとは、どこか主に減っているところはありませんか。

教育次長

こちらの一覧につきましては、主要事業だけを載せておりますので、確かに差引は合わなくなっております。また、新規というものだけを取り上げるとかなり増えている形になっておりますが、新規・拡充といいながら、例えば、学校のトイレ改修の予算を少しずつ減らしたり、色々な事業から少しずつ減らし

た中で余剰財源を生み出して、なるべく新規事業・目玉事業としてやっております。また、詳細については答えられなくて恐縮ですが、ちょっと調べさせていただきたいと思います。

野口委員

わかりました。ありがとうございます。

松村委員

教育ＤＸ推進事業についてです。ＡＩドリルとか、採点業務支援システムとか、健康観察アプリ導入というのは非常に、特にＡＩドリルもこれから確かめなければならないと思いますが、一人ひとりに個別最適化になっていく学習の仕方、それから、一人ひとりが自主的だったり、事実的に演習量も増えていく。いろいろなテストとか、授業中のドリルとか、宿題とかでも役立つということで、非常に有効だなと大変期待しております。ただ、その反面というか、裏側のことになりますが、やはり、対人間でなくてできないものが損なわれるということではないと思いますが、そこの部分を今まで以上に、子どもたちとも対人間の対応の中でいろいろなことを学んでいく体制をつくっていく必要があって、精神論ではなくて、そのようなことが必要であるというような研究も是非、していただければなと思います。

そういったＩＴの中での把握ですと、表情とかつぶやきとか、人と人との間の関係性とか、姿勢とか思いとかそういったものを把握できないと思います。そのようなことをさらに強化していくような、例えば人の育成とか、人的配置とか、配置していただいている支援員の、その支援の内容とか、そういったところもやはり丁寧にもう一度確認していただいたり研究していただいたりして、その上でこの事業を進めていただければと思います。

学校教育課長

松村教育委員さんがおっしゃるとおり、ＡＩによる個別最適な学びだけでなく、文部科学省も言っている協働的な学び、人と人がかかわって育っていくことが重要だということは言うまでもないことだと思っております。ＡＩドリルの活用については、授業の中ですべてを使うのではなく、主に授業の終末段階であったり、家庭学習であったり、授業以外のところでも使っていきたいと考えております。また、人を育てるというところについては、小中一貫教育であったり、教科担任制であったり、そのようなモデル校の指定も考えながら、子どもにより多くの教員がよりかかわっていく中で、人を育てる部分には力を入れていきたいと考えております。

須藤教育長

足利の学校教育はご案内のとおり、人権教育を基盤としております。今回の学校教育指導計画作成の際にも、「把握」と「関係づくり」という文言を、教育委員さんからもご指摘をいただいて、敢えて今回入れさせていただいたわけです。そこが一番のベースになっていくと思います。それがあってのＤＸですので、そこだけは履き違えずに、ＤＸ在りきで進むのではなく、あくまでも学校教育は集団の生活の場ですので、そうした人と人の、教師と児童生徒、児童生徒同士、保護者、地域の方も含めて、そこは常に重視しながら進めていきたいと考えております。

松村委員

今おっしゃっていただいて、少し安心しましたが、今まで以上にやっていく必要があると思いましたので、発言させていただきました。

須藤教育長

見えなくなってしまうことがありますので、そこは気をつけながらやっていきたいと思います。

笠原委員

まず、先に今松村委員がご指摘されたことは、本当に現場を知っている委員がなおさらおっしゃることで、私も意を強くしたというか、是非ともその方向性を堅持していただきたい。教育長からも補足の説明がありましたが、まさしくその方向は素晴らしいことだと思います。敢えて私もそれをお願いしたいと思います。

もう１点。これはむしろ４号議案の議決の際に聞いた方がいいのかもしれませんが、１１番の藤本観音山古墳。令和５年度予算で８，９００万円の予算を計上するわけです。議案４号の図を参考にすると、令和５年度以降の取得予定が水色の土地なわけです。これが一番問題の土地だということは誰でもわかると思います。幸いなことに予算８，９００万円というのは、かなり今回の令和４年度の取得からしても面積的にも、もちろん今回の取得は農地ですから、他の水色の土地はちょっと地目が農地ではなく、そもそも単価が高いかもしれませんが、これは、この水色の土地がかなりの確率で買えるという目算が立ったということで、理解してよろしいのでしょうか。

文化課長

こちらの令和４年度の予算につきましては、前回の教育委員会でご説明したところですが、地権者が二者おりまして、古物商を行っている方ではない方の

土地、農業をやっている方が移転先の目星がある程度付きました。令和４年度は土地だけでしたのでそれなりの金額でしたが、来年度は土地代と少し補償額がございまして、令和５年度の数字が上がっているという状況でございます。

笠原委員

そうすると残念ながら、まだ全部が取得できる見通しが立ったということではないわけですね。

文化課長

懸案のその土地は地権者の方と接触しますと、反対しているとかそういうことではなくて、協力的な姿勢でいらっしゃいますが、やはり自らが行っている業種の今の土地からあまり遠くに行きたくない。近くの中でということで、土地の目星を付けようとしています。まだ、そこまでもう１件のように移転先が明らかになっていないというのが現状です。

笠原委員

本当に狙った土地を買うというのは、言葉が不適切かもしれませんが、実は売る方がお客様みたいなところがあります。拙速にできるわけではないですから、地道に努力を積み重ねていただくしかないのかなと思います。引き続きよろしくお願いします。

松村委員

実施計画でいうと、１０ページ２３番、外国人児童生徒支援事業についてです。小学校で中国語の支援員がついたり、中学校でタガログ語の支援がついたということで、子どもたちの実情に応じた配慮を早速していただいたということで、本当にありがたいと思います。その他の言語による支援員というのもあると記載してありますが、国の名前とか、支援員の人数とか、児童生徒１人当たりの実数など、どのぐらいついているのか教えていただけたらありがたいです。

学校教育課長

拠点校を中心としたときに、日本語指導を必要とする児童生徒ということになりますが、例えば、山辺小学校が１３名、南小学校も１３名、山前小で２１名、御厨小で１２名で、拠点校ですと５９名という人数になります。その中でも現在は、スリランカからの方が多く、タミル語やシンハラ語の対応が急務となっております。現在のところ、新たに支援員を１名増員という形で考えておりまして、増えている外国籍の子どもに対応できるように考えております。

松村委員

支援員の人数をお聞きしたつもりですが。

学校教育課長

支援員は現在２名で、来年度、さらに１名増員という形になります。

松村委員

対応は、児童１人当たりそれぞれ違うのでしょうかね。週に１時間ぐらいでしょうか。

学校教育課長

お一人は中国語が堪能な方で、小学校に週１日、中学校に週２～３日対応しています。もうお一人はフィリピン語が堪能な方で、小学校２校と中学校１校にそれぞれ月２～３日対応しております。

松村委員

ありがとうございます。引き続いてよろしいでしょうか。２５番の放課後子ども教室事業についてです。小学校１２校中学校２校、そして学習活動と多様な体験活動となっております。中学校についてですが、放課後の時間というのは取れているのか。部活動などがあってどのようにとっているのか。それから教科の学習は、教科の専門の指導員が必要になってくると思いますが、対応が難しいのではないのかなと思いますが、足りているのかどうか。それから、今は学習活動が多いとお聞きしていますが、将来的に小中学校ともに多様な体験活動も狙っている事業なのかどうか、お聞きしたいと思います。

生涯学習課長

まず、中学校での実施についてです。現在行っているのが、富田中学校の１校。学校の自主事業ということで行っておりまして、学校で時間を取っていただいて、そこでボランティアであったり地域の方が行って、その時間、指導するところまでいきませんが、その時間見ているという形となります。来年度は中学校を１校増やす予定でおり、同じような形になるかと思います。

体験活動につきましては、学校との打合せの中で、勉強を主としてやってほしいという学校には、勉強をみることになります。それ以外に、ゲームですとか一緒に遊ぶようなソリティアやマンカラというような遊具を使って遊ぶようなこともしております。夏休みにはさらに、地域の方を含めた体験学習などを行っております。

野口委員

質問ではなくて、実際に私が去年経験したことを是非、皆さんにお伝えしたいので、この場をお借りしてもいいですか。１４ページの７番の足利魅力発信事業です。去年１１月５日に、何人かご存知の方がいらっしゃるかと思いますが、「足蔵フェスタ」という行事を、けやき小学校と鑁阿寺のちょうど中間地点の蔵のあるところで実施しました。足利高校の生徒さんと佐野高校の生徒さんが協力し合って、是非、足利の魅力を自分たちの力で発信したいということで、足利銘仙であったり、足利の有名な和菓子処のお店の人に、本人たち自らが出向いて出店してもらうようにして販売をしました。その販売も企画立案もすべて高校生が行い、もちろん保護者や先生のサポートがあってのことですが、大成功させました。そのときに実は、私は「足利八木節女前 Japan」をやっておりまして、是非、ボランティアで出て欲しいと言われて、参加させていただきました。

生徒さんの盛り上がりがものすごくて、販売商品も全部完売しました。夕方から夜にかけて時間的には遅い時間でしたが、近所の住民の迷惑にもならないように、高校生自らが「申し訳ございませんがこういう行事がありますので…」ということで前もってご挨拶に伺っていました。そういうことからすべていろんな人のサポートを受けて、１から１０まで高校生がやり遂げたということを私は目の当たりにしました。

足利と佐野の高校生もすごいなということを本当に実感しましたので、是非、この７番の中で、そういった魅力ある足利を盛り上げたいという、そんな心意気のある生徒さんを私も応援したいと思っているし、こんな素敵な生徒さんがいるということを報告したくてお話しました。

須藤教育長

ありがとうございます。今、野口委員さんが話されたようなことが教育委員会事務局の事業ではないとしても、いろんな関連したことが派生する中でかかわりが出てくると思います。是非、今のお話を受けとめていただければと思います。

木村委員

６ページの１番ハザードマップ改訂事業です。市のホームページだけではなく、スマホで見やすいハザードマップというものをつくってもらえるとありがたいなと思います。ニュースを見ていると水があっという間に上がってしまうということも聞きますので、有事のときにどこに逃げたらいいのかということが、パッとスマホで見られるような体制を、行政として整えてもらえると１市

民としては嬉しいなと思いました。
　もう１点です。２１ページの部活動指導員配置事業に関することです。この事業の進捗状況について、以前募集を掛けて動いているかと思います。もし可能であれば進捗状況等を教えてもらえればと思います。

須藤教育長
　ハザードマップの件につきましては、先程の野口委員さんのご意見もそうですが、関係課の方に教育委員さんからのご意見として、事務局の方から伝えていただければと思います。

学校教育課長
　部活動指導員・外部指導者、両方をお願いしている方もいらっしゃいますが、現在、延べで１０名となっております。部活動指導員が８名、外部指導者もやる方を入れると１０名となっています。指導できる種目としては、吹奏楽、バドミントン、音楽、野球トレーニング、剣道などに応募していただいており、今後、学校の方で部活動の指導の調整をしていきます。現在、富田中学校の音楽部で指導いただいている方も部活動指導員として登録をしたいという話もあります。これから各学校のニーズを把握しながら、登録内容をチェックしていくところです。

木村委員
　ありがとうございます。進んでいるようでホッとしました。おそらく今後、会社もそうですが、人が採れなくなってくるということが、大きく教育にも関わってくると思っています。おそらく教員の募集に関する応募状況もかなり少なくなっていると聞いています。我々の業界もそうですし、多分足利もそうですし、世の中の業界すべてだと思いますが、離職する子が非常に多いと思います。企業でも大きな穴が空きますが、学校はもっともっと大きな穴が空くと考えています。
　昨今の若い世代の子たちの仕事に対する重みとか、その仕事に対する時間の制約、これすごく重要だと思っています。こういった部活動の教育は、非常に重要だと思っています。ただ学校の先生に対する負担が非常に多いと思っていますし、それがおそらく応募のところとリンクしてくると思っています。教育委員会としても、こういったものを第一に考えて、先生の負担、負荷をどのように減らすかということを考えていかなければならないと思っています。その中で、教育のＤＸ化というのは、早めにやっていくべきだと思いますし、例えば、学校の授業をどこかと一緒に共同で、リモートでやるとかというところも含め、先生のリソースをなるべく減らして、その空いたリソースで部活動など

というところに振り向けていかないと、おそらく今後、先生のなり手っていうのはいなくなるのかなと思っています。そういったところは、教育委員会、我々も含め、みんなで考えていかないといけないところなのかなというふうに思いますので、一考できればと思いますので、提案ということになります。

松村委員

主要事業の中にもありますが、その他にもたくさんの改修事業を積極的にやっていただくということで、本当に頼もしく感じております。足利学校や樺崎寺跡、藤本観音山古墳観、物外軒、それから陸上競技場や軟式野球場、市民体育館など、様々で大変だと思います。その内容の中に、直接ではないかもしれませんが、バリアフリー化が施設として加味されて考えられているかどうかについて、老婆心だと思いますが確認させていただければありがたいです。

市民プラザ別館がありまして、楽しい催し物に車椅子の人を連れて行きましたが、上がることができなかったです。たくさんの方にお手伝いいただいて、車椅子を上げた。何度もそういうことがありました。自分が車椅子で動いてみるような利用者目線で、もう一度、体だけでなく視覚、聴覚にハンディのある方や、子ども、お年寄り、外国人など、様々な方々にも利用しやすい足利市の施設であって欲しいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

岡田次長

バリアフリーについては、これから新しく造る施設については必ず取り入れないと、国県の補助がいただけない形になっています。昔建てられたものについても、順次、バリアフリーに改修していきたいと思います。例えば、今年度に実施したところですと、八木節会館はスロープを付けて入れるようにしました。順次、予算の範囲で１つ１つ実施していきたいと思います。

市民プラザの別館につきましては、取り壊しが決まっている施設ですので、そういった施設には予算がかけられないということでご理解いただきたいと思います。今後もバリアフリーを考えながら、施設の改修をしていきたいと思います。

須藤教育長

先程、木村委員さんの方から部活動指導員の話がありましたが、学校教育課長の方から説明があったとおりの状況です。ただ部活動指導員には、公務員は登録できない規定になっております。ただ、市職員の中にも、または小学校の教員の中にも、土日等の時間があるときに、外部指導者として部活動指導をしてもいいという人もいるかもしれませんので、市職員、それから小学校の教員の方にも、同じような募集をかけています。土日のみになってしまいますが、

そういう対応もしておりますので、ご承知おきいただければと思います。
　教育委員さんからのご質問等の中で、事業内容として組み込んでいくべき中身につきましては、しっかりとした対応をお願いいたします。

須藤教育長
　ここからは、先の決定のとおり、会議を非公開で進めます。

日程第３　議案第２号
令和４年度足利市一般会計補正予算（第１０号）について（教育委員会関係部分）
（非公開）

須藤教育長
　議案第２号については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。
（「異議なし」との発言あり）

　ご異議ないものと認め、原案のとおり決定いたします。

日程第４　議案第３号
令和５年度足利市行政組織の改正に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について（教育委員会関係部分）
（非公開）

須藤教育長
　議案第３号については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。
（「異議なし」との発言あり）

　ご異議ないものと認め、原案のとおり決定いたします。

日程第５　議案第４号
財産の取得について（藤本観音山古墳保存整備事業用地の取得）

（非公開）

須藤教育長

議案第４号については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」との発言あり）

ご異議ないものと認め、原案のとおり決定いたします。

ここで、会議を暫時休憩とし、**議案第５号**については、教育委員室に場所を移して、教育次長、教育総務課長、学校教育課長の出席を求め行います。

それでは、第２回教育委員会定例会を再開いたします。

日程第６　議案第５号
令和５年度足利市立小中学校長・教頭の人事異動ついて

（非公開）

須藤教育長

議案第５号については、原案のとおり決定し、栃木県教育委員会に内申することでご異議在りませんか。

（「異議なし」との発言あり）

ご異議ないものと認め、原案のとおり栃木県教育委員会に内申することに決定いたします。

須藤教育長

それでは、これを持ちまして、第２回教育委員会定例会を閉会いたします。

閉会　午後３時１０分